

2023 年度

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079900215		
法人名	有限会社たかみねの里		
事業所名	グループホームたかみねの里	ユニット名	
所在地	福岡県田川郡大任町大行事2745番地		
自己評価作成日	2023年6月14日	評価結果市町村受理日	2023年7月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2023年6月20日	評価確定日	2023年7月5日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所の理念にもあるように、「介護から快護へ」を実践し、利用者の方に快いと感じていただけるようなケアの在り方を追求し、利用者の方（家族を含め）と職員との関係が対等となるよう心がけている。また、24時間体制で看護師が常勤でいることで安心して生活をしていただくことができる。

田園風景ののどかな環境の中で、家庭に近い日常生活を過ごしていただけるよう支援し、身体的・精神的なストレスを無くし、四季を楽しみながら、一人ひとりの能力・人格を尊重したケアを心がけている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホームたかみねの里”は開設から18年を迎える。法人内に看護師（施設長含む）が7名勤務しており、介護職等も含めて日々の気づきは素晴らしく、早期対応に繋がるとともに、理念である「介護から快護へ」の実践に繋がっている。ホームは趣のある平屋で、中庭には日本庭園が造られている。紫陽花などの季節の花が咲き、梅やブルーベリーの実が生り、梅ジュースやブルーベリージャムなどを手作りしている。入浴は隣接する小規模多機能事業所の浴室を利用し、広い浴室で窓越しに見える緑の木々を眺めながら入浴できる。日々の食事は廊下奥の有料施設で手作りし、畑の野菜も使用している。食べたいものを教えて頂き、個別に購入して提供したり、ノンアルコールビールで晩酌される方もおられる。2023年度は地元の神幸祭が再開し、敷地内まで神輿が来て下さり、近所の方々と一緒に記念撮影することができた。馴染みの美容室の利用ができた、ご利用者とスーパーで買い物できたり、近くのお店で外食を楽しむこともできた。今後も更にご利用者の笑顔を増やすとともに、家族の方や地域の方々との情報交換の機会を増やし、お互いのことをより理解し合えるように努めていく予定である。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>月曜日朝の朝礼において、理念の唱和を行っている。朝礼に参加しないパート職員に対しても、カンファレンス等で共有できるように働きかけている。</p>	<p>長く勤務する職員も多く、入職した職員とも良きチームが作られている。「介護から快護へ」という理念を大切にされており、理念には「のどかな田園風景の中で」という地域密着の思いも込めている。ホーム周辺の散歩や花見を楽しまれ、コロナ禍も季節行事を継続し、職員個々の意見やアイデアを出し合い、「愛情」「熱意」「根性」で日々の快護に繋がっている。笑顔溢れるひと時とともに、居室で1人で過ごせる時間も大切にされている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>コロナ禍で交流を控えていたが、今年5月の神幸祭で、数年ぶりに地域のお神輿がホームまで来て下さり、近所の皆さんと記念撮影が出来た。</p>	<p>散歩の時に地域の方と挨拶している。地元の園児の踊りをテレビに映し、一緒に楽しむ機会も作られている。2023年5月の神幸祭では玄関先までお神輿が来て下さり、ご利用者も縁起物の神輿を喜ばれていた。コロナ前は地域の敬老会やシジミ祭り等に参加したり、ホームの敬老会等にボランティアの方が三味線やお琴演奏をして下さっていた。2つの保育園児の慰問もあり、七夕やクリスマスの時に遊戯等をして下さり、ご利用者の楽しみになっていた。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>入居者募集のチラシに、介護のことでご相談があればお気軽にお問い合わせ頂けるよう記載している。近所だから話を聞きに来た、と来訪される方もいらっしゃった。</p>		
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用状況や行事内容、事故の有無等を報告し、頂いたご意見をサービス向上に活かせるよう努力をしている。</p>	<p>併設の小規模多機能等と合同開催している。コロナ禍は書面会議が多く、ホームの取組みや事故・ヒヤリハット報告、行事報告（写真添付）を行い、疑問点などの相談をするとともに、電話とFAXで連絡を取り、近況報告や意見交換を続けている。ホーム側からの質問も書面に込めており、他の施設の取組み等を教えて頂いている。</p>	<p>今後も地域の方々と家族の参加を増やす方法を検討するとともに、土砂災害を含めた災害対策や地域の方（役場等）との協力体制の在り方を情報交換できればと考えている。</p>

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉課とは日頃から密に連絡をとっており、介護のことだけではなく、総合的にご協力いただいている。	役場から利用者の紹介を受けることもあり、精一杯の対応をさせて頂いている。施設長や事務長が役場を訪問時は、必ず事前連絡しており、コロナ禍の感染対策に関するアドバイスを頂いたり、内容に応じて広域連合（本部）に相談する時もある。コロナ以前は、ご利用者と役場の草むしりに参加し、いただいた球根をホームの庭園に植えていた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どの行為が身体拘束にあたるのかを職員1人1人が正しく理解できるよう勉強会を実施している。身体拘束ゼロを目指して取り組んでいる。	2022年に広域連合からの指導もあり、「身体拘束」に関する勉強を続けている。施設長・介護支援専門員・看護職員・介護職員による身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束に該当する内容と要件、身体拘束による心身のリスクを再確認しており、2023年度内に虐待防止委員会も開催予定である。有料施設を含め、「身体拘束ゼロ」への意識を更に強化していく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する意識を高めるために勉強会を開催し、虐待を発見した際の対応についても十分な理解を深めている。職員の意識や認識を向上させ、見過ごされる事のないよう努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々の会話の中で、成年後見制度の話題が出ることはあるが、詳細まで把握していないスタッフも多いため定期的に学ぶ機会を設けている。	施設長が権利擁護に関する窓口になっている。入居時に制度の説明を行い、必要時は書類作成等の手続き支援をしている。現在、制度を利用する方はおられないが、家族関係に気を配り、制度の必要性の確認を行っている。「介護現場における高齢者の権利擁護とは」等の内部研修を行い、職員間で共有している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の前に、不安や疑問点を尋ね、丁寧に説明し、ご理解、ご納得頂いた上での契約をしている。入居後も、いつでも問合せに対応出来るような体制作りをしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族からの意見、要望は担当者会議の中で聞き取り、個別援助計画の中に反映している。	地域の感染状況に応じた面会方法を検討してこられた。コロナが5類に変更後、各居室での面会（時間制限なし）も再開しているが、家族の遠慮もあり、窓越しの面会をされる方もおられる。家族向けの通信をほぼ毎月郵送すると共に、メール等も活用し、日々の暮らしぶり（写真や動画を添付）を報告している。コロナ前はホームの行事に参加できる家族もおられ、家族会（年1回）は家族同士の交流の場になっていた。今後も家族と情報交換する時間を増やし、家族の真意を理解していく予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの中で意見や提案は積極的に出してもらい反映させている。管理者や施設長に意見や提案をしやすい雰囲気作りを心掛けており、働きやすい環境となるよう努めている。	職員が自主的に活動する姿が見られ、行事のアイデアも多い。クリスマス会ではご利用者と一緒にハンドベル演奏を行い、職員の出し物（歌と踊り）や施設長の踊りや歌のメドレーも大好評で、ご利用者も笑顔溢れる時間となっている。ドライブを兼ねて季節の花見にお連れしたり、屋外でバーベキューを楽しまれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるよう自主性を尊重している。職員のプライベートの生活に配慮し、公休希望や有給休暇、早出、遅出の希望等に最大限応えている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別・年齢などの制限は設けていない。また、職員一人ひとりが能力を發揮できるよう自ら考え行動できるよう配慮している。資格取得への支援も積極的に行っている。	施設長が面接している。現在は全員が有資格者であるが、資格よりも社会性（マナー・言葉遣い）、やる気（働きたい姿勢）を大切にしている。優しく明るい職員ばかりで、日々の業務では職員個々の能力を發揮し、職員同士の助け合いも日常である。施設長も一緒に仕事をしており、日々の生活状況（ケア等）を理解している。公休希望に応じ、働きやすい環境作りを続けている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	認知症を含めた疾病に対する理解を深め、勉強会を通じて意識向上を図っている。	「人権と尊厳を支える介護」の内部研修を行った。ご利用者は人生の大先輩である事を職員は大切にされており、理念の“快護”も意識し、ご本人のペースや要望を大切にしながら関わりを続けている。ご利用者の生活歴を共有し、行動の背景にある思いの理解に繋がっている。月曜日の朝礼で理念を読み、認知症の理解を深めると共に、自分の感情を捨てて“快護”を行うように努めている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量に応じた研修を紹介している。働きながら資格取得を目指す場合は、資格取得への支援も積極的に行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	田川地区介護サービス事業所協議会を通じて同業者と交流する機会は設けていたが、コロナ禍のため現在は控えている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人の話を傾聴し、初期段階で信頼関係が構築できるよう努めている。自分の意志を伝える事が困難な利用者に対してはコミュニケーションの中から汲み取ったり、表情から読み取るようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の段階でご家族の困りごとや要望を傾聴し、ご家族の気持ちをしっかりと受け止め信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族が必要としているニーズに合わせ、様々な社会資源とつなげていけるよう努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	下膳、台ふき等をお願いしたり、ゴミ箱のゴミを捨ててもらったり、能力に応じた役割を持っていただけるよう対等な関係作りに努め、日々のケアにあたっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で直接の交流は控えているが、以前は行事への参加を呼び掛けたり、家族会を開催していた。現在は毎月ホーム便りを郵送し情報の共有をしたり、本人とご家族が電話でお話されたりしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活歴を本人、ご家族、ご親戚等から聞き、一人ひとりに合った支援ができるよう努めている。	「馴染みの美容室でパーマをかけたい」という要望があり、職員の送迎で実現できたり、スーパーへの買い物にお連れすることもできた。居室に思い出の写真を飾り、年賀状や暑中見舞い等の葉書き作りを行い、家族や知人からの手紙はご本人に渡し、いつでも読み返せるようにしている。コロナ以前は馴染みの出雲大社に初詣に行き、お守りを買われたり、自宅までドライブすることもあった。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を理解し、適度な関わりが持てるよう支援している。 難聴など、会話が困難な場合にはスタッフがフォローしながら良好な関係を保つことができるように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要な際は相談など受ける旨を声かけし、関わりを持ち続けられるよう努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望、意向に沿えるよう、出来る限り努めている。困難な場合は、代替案を提案したり検討を重ね、ご納得いただけるような働きかけをしている。	団欒時や入浴時など、思いや意向の把握に努めている。「食べたいもの」「行きたい場所」等を伺い、叶えるように努めている。意思疎通が困難な方は表情や行動などから思いを察するようにしている。何気ない表情の変化や行動の変化に気づけるように努めており、得られた情報は職員間で共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、ご家族それぞれから今までの生活歴や生育環境を聞き取りし、過去に利用していた事業所からも情報提供をして頂いている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースを大切に、身体状況や生活のリズム、表情、言動、会話の内容等、出来るだけ記録に残し、些細な変化も把握できるよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の意向を聞き、他職種間での情報の共有や意見を出し合い、利用者様一人ひとりの現状に合った計画を作成している。	ご本人の有する能力や要望等をセンター方式（D-1・D-2）や別のアセスメントシートに記録している。ご本人が「できること」「できないこと」を職員全員で確認し、計画作成担当者（ケアマネ）が計画の原案を作成し、会議で検討している。ケア内容や役割と共に、日常生活リハ、ご本人のお好きな事も盛り込み、誤嚥予防等の留意点も入っている。週間計画表（2パターン）も作成し、ご本人や家族にサインを頂いている。	今後は更に家族と一緒にケアプランの話し合いができるよう、家族の方々と時間調整をしていきたいと考えている。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や言動、表情を個別の介護記録に細かく記入し、朝・夕の申し送りで情報共有している。モニタリングも行い、現状に合った計画を作成している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況によって、通院の支援や外食等、要望には最大限応えるよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交番、消防署、役場、保育園、理美容院、医療機関等、日頃から関わりを持ち、理解や協力を得る働きかけをするよう努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の要望に沿ったかかりつけ医にて受診できるようにしている。受診時には看護師が同行し、主治医との連携も良好である。	施設長を含め、法人全体で看護師が7人勤務しており、介護職の安心になっている。内科（月2回）・歯科（週1回）の往診があり、他科受診は看護師が同行し、家族と受診結果を共有している。重度化している方も多く、1時間の対応ロスが重度化する場合もあり、日々の気づきを深め、昼間の早期対応に繋げている。看護記録も作り、職員間で共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と常に連携をとり、急変時も24時間体制で対応している。状況によっては訪問看護師との連携も行い、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師が病院へ同行し、医療機関との情報交換や相談に努め、状態を把握している。退院後も安心して暮らせるよう退院前には病院関係者とのカンファレンスを行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについては、24時間体制の医療連携を整え、本人及びご家族等の意向を最大限に尊重したケアを実施出来るよう努めている。	ご本人や家族と話し合い、「ここがいい」「できる限りホームで生活させたい」等の意向を確認している。かかりつけ医と24時間連携し、必要時は訪問看護も利用できる。「最期まで綺麗に」という施設長の考えを職員全員で共有し、日々の清潔保持を心掛け、優しい声かけを続けている。コロナ禍も家族と一緒に精神誠意のケアが行われた。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。コロナ禍以降は実施されていないが、消防署主催の救急救命講習に参加していた。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い消防署から指導を受けている。消火器の使用方法や避難訓練の実施、夜間想定した訓練も行っている。地域へは消防訓練のお知らせを配布している。	2023年5月は消防署と一緒に台所からの出火を想定した訓練を行い、ご利用者も一緒に避難している。豪雨時等は道路が冠水する時もあり、役場の方が土嚢を積み上げて下さり、消防団も来て下さる。最新の避難経路の地図をリビングに貼り、散歩の時に避難経路を確認している。水や食料を準備し、タオル・シーツ・懐中電灯・非常用持出袋・手袋・携帯ラジオ・長期保存食品等を備蓄している。BCP（業務継続計画）も作成し、今後も訓練を続けていく予定である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護には十分配慮し、言葉遣いや声掛けの仕方が尊厳を損ねるものになっていないか、勉強会やカンファレンスの場で話し合い意識向上を図っている。	「人の命を預かる重大な仕事をしている」事を施設長から職員に伝えている。羞恥心の配慮も行い、希望があれば同性介助も行われている。ご利用者個々の呼び名も検討し、下の名前を好まれる方は、家族にも確認している。ご利用者への言葉遣いも配慮しており、SNSを含めた個人情報の管理と重要性の研修もしている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表出しやすい環境作りに努めている。また、言葉からだけでなく、表情や態度などからも汲み取ることができるよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿った支援が行えるようにしている。その日の体調や気分に合わせて、個々のペースに合わせて生活を送っていただけるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の服装にそえるよう配慮している。毛染めやパーマ等、希望があれば美容室へお連れしている。化粧品の使用も自由に行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に参加する機会を設けたり、配膳や下膳、台ふき等に参加していただけるよう声かけを行っている。おやつ作りを企画したり、個別に食べたい物がある場合には好きな物を召し上がっていただいている。	隣接する施設で3食手作りしている。朝食の味噌汁は具が多く、栄養バランスも配慮しており、今後も更に朝食の献立を検討していく予定である。嚥下状況に応じペースト食等を準備し、職員が優しく食事介助している。季節ごとに“つくし”やワラビ等の山菜採りに行き、ご利用者が“つくし”の袴取りや、フキや芋ツル等の皮むき、畑のエンドウ豆の筋取り、盛り付け、テーブル拭き等をして下さる。行事の際はバイキング形式や屋台形式、バーベキュー等を楽しまれている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じた食べやすい食事形態で提供し、個々の体調、食事量、水分摂取量を記録し、申し送りをしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの働きかけを行っている。また、一人ひとりの口腔内の観察を行い、必要に応じて歯科の訪問診療を受けている。義歯は洗浄後、消毒剤につけて清潔を保持している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄リズムを把握するよう努めている。できる限りトイレでの排泄ができるよう努め、居室にポータブルトイレを設置している方もいる。	トイレで自立し、布の下着を着用する方もおられる。車いすを利用する方も、できる限りトイレにお連れしており、立位が取れるようにリハビリを続けている。トイレに座ると排泄に繋がりに、日中の失禁は減っている。ご本人の希望でポータブルを居室に置いている方もおられ、座位が困難な方はオムツを使用し、定期交換や陰部洗浄を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、散歩、風船バレーなど体を動かす機会を設け、食事内容や水分量を把握し便秘予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な曜日は設定しているが、その日の体調や希望に合わせて柔軟に対応できるよう配慮している。	隣接する小規模多機能の広いお風呂を利用し、入浴時は外の本々を眺める事ができる。入浴時は会話や柚子湯を楽しみ、シャワー浴の方も保温に努めている。週2回の入浴日以外も要望があれば入浴でき、それ以外の日は清拭や陰部洗浄を行い、清潔保持に努めている。2人介助で入浴する方もおられ、入浴日は4人以上の体制にしている。できるところは自分で洗われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの心身の状態に合わせて休息して頂いている。夜間は定期的に巡視し、覚醒状況や呼吸状態、居室温度等にも配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は看護師が中心となり行っている。変更がある場合においては記録の中に残し、申し送り確認するよう努めている。また症状・心身状態の変化においては記録に残し、主治医との連携で支援している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から得意なことを活かした活動を行ったり、晩酌が好きだった方には、夕食時にノンアルコールビールと好きなつまみを出したりしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等の外出支援は本人の希望に応えられるよう努めている。以前からなじみのある飲食店での外食を希望された方には、スタッフが同行したり、ご家族等の協力を得ながら支援できるよう努めている。	敷地内を散歩し、庭園の東屋で休憩したり、季節の花を楽しまれている。「外出」と言う言葉を聞くと、ご自分で帽子をかぶる方もおられ、花公園での秋桜見学、おおう桜街道の桜の花見を楽しまれた。希望に応じてスーパーでの買い物や馴染みの美容室、飲食店での外食にお連れしており、コロナ前は初詣や道の駅、イオンでの買物等に行かれていた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分である程度管理のできる方は、お年玉をあげたり買い物に使ったり、ご自分で管理できるお金を所持されている。事務所で預かっている方には必要な際に渡し、現金出納帳にて管理し報告を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があればその都度使用していただいている。また、手紙のやり取りも自由に行っていただいております。年賀状を出す方もいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合ったカレンダー作りや壁面掲示を工夫し季節感を取り入れている。季節の花を飾る事もある。また不快な刺激がないよう、暑さ、寒さ、まぶしさ等に配慮している。	リビングは広く、窓も大きくしており、中庭の日本庭園を眺められる設計にしている。季節に応じた飾りつけを行い、ご利用者も一緒に貼り絵や塗り絵、カレンダー作り等を楽しまれている。お好きな歌を唄われたり、お好きな音楽を流し、一緒に口ずさむ方もおられる。掃除専門の職員等が掃除を徹底し、清潔な環境が保たれている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、一人ひとりが快適に過ごせるよう努めている。大型のソファもあり、中庭を眺めたり、一緒にテレビを見たり、思い思いに過ごせるよう配慮している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅での環境に近づけるよう、これまで使用されていたなじみのある筆筒、写真などを持ってきていただき、本人が居心地よく過ごせるようご家族にも協力をいただき、工夫している。	窓の障子は趣きがあり、窓から緑の木々を眺める事ができる。馴染みの筆筒や毛布、鏡台と共に、ご自分で描いた水彩画（花など）やお孫さんが描いた絵、家族の写真、手紙等を飾られている。日々の換気も行い、掃除も綺麗にされている。居室で1人で過ごすことを好まれる方もおられ、テレビ等を見られており、適宜職員が声かけしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせた環境整備に努めている。危険や困難が生じた場合は、不安材料を取り除けるよう配慮し、安全な環境をつくっている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				